

宮城県議会 少子化対策特別委員会

5月11日、宮城県議会少子化対策調査特別委員会の県内調査。富谷市と利府町における少子化対策の現状及び課題について、若生裕俊富谷市長、熊谷大利府町長から、それぞれの取り組みをお聞かせいただきました。



7月11日から13日にかけて、宮城県議会少子化対策調査特別委員会の県外調査で、北海道札幌市、福井県福井市を訪問しました。「北海道大学COI「食と健康の達人」拠点における少子化の課題解決に向けた研究活動について」（北海道大学 フード&メディカルイノベーション国際拠点）「北海道における少子化対策の取組について」（北海道議会）「福井県における少子化対策の取組について」（福井県議会）

自由民主党・県議会政務調査会長

昨年11月に、自民党派の政務調査会長に就任し、各党派政務調査会長会議の座長として、全会派の政務調査会長と調整し、県議会の政策形成について活動をしています。この6月議会においても、議会開会前から連日、会派内の意見調整、他会派との調整に取り組んでいました。特に、意見書・決議等の会派間調整に取り組み、6月議会においては、意見書案3件が可決されました。7月25日、個人情報保護条例案について守衛守武委員長より説明、パブリックコメントの実施について各会派了解。

インクルーシブ遊具の設置が実現しました！

宮城県議会6月定例会において、渡邊重益議員の一般質問に対し、「県立都市公園にインクルーシブ遊具を整備する」ことが示されました。インクルーシブ遊具とは、障害の有無に関わらず子供たちが一緒に遊べるというもので、今年3月に宮城県総合運動公園に、8月に矢本海浜緑地に設置するとの答弁がありました。このインクルーシブ遊具の設置については、令和3年2月県議会の一般質問において渡辺が提案したもので、宮城県で初めて、「インクルーシブ公園」の設置が実現しました。



メディア掲載

渡辺勝幸の活動について、メディアで取り上げていただいておりますので紹介します。

一部反応に『良識や節度を』／安倍氏死去 県内の保守系議員訴え（『産経新聞』宮城版刊行 令和4年7月16日）

詳細は [渡辺勝幸ウェブサイト](#)

渡辺勝幸 が取り組んだ主な政策テーマ及びその活動

県民の皆様から頂いた要望、行政調査・説明等、渡辺勝幸が今期取り組んだ政策テーマの主なものについてご報告します。一つでも多くの県民の声が政策として実現できるようさらなる努力をしてみたいです。

- ◆ 憲法改正をめぐる諸課題について
- ◆ 津波浸水想定の設定公表について
- ◆ グループ補助金について
- ◆ 県内の印刷業界の現状・官公需等について
- ◆ 仙台市政と県政の連携について
- ◆ 私立幼稚園経営の課題について
- ◆ 水産業界資料のデジタル化について
- ◆ 貞山運河の利活用について
- ◆ 統合医療の現状と経緯について
- ◆ 北朝鮮による日本人拉致問題について
- ◆ 介護人材確保に係るベトナムと宮城県の覚書締結の現状について
- ◆ 県内障害者スポーツの振興について
- ◆ 地域公共交通について
- ◆ 北方領土問題について
- ◆ 商店街振興施策について
- ◆ 仙台国際貿易港の現状について
- ◆ 国際リニアコライダーの誘致活動について
- ◆ 多賀城市と県行政書士会の連携協定について

5/10

金子総務大臣に要望書を提出。この一年半、60名を超える全国の地方議員の方々とオンラインで地方の政策を議論してきた「地方制度研究会」。地方の課題を要望事項として金子大臣に提出、意見交換をしました。事務局として全国の地方議員の皆さんと課題共有、政策提案の機会をいただき、大変なときもありましたが宮城県政推進の様々なヒントを見つけられました。



6/9

自由民主党・県議会教育振興議員連盟による県内調査に参加。文部科学省により東北ではじめて不登校特例校に指定された、富谷市立富谷中学校西成田教室の現状について。

7/21

▶環境・エネルギー議連勉強会、東北電力より電力需給と系統整備への対応状況、カーボンニュートラル社会の実現に向けた東北電力グループの取組み、電力小売事業の現状について説明聴取。
▶遺骨等を含む土砂投入を憂慮する市民の会のみなさんと意見交換、公明党遠藤伸幸県議とともに対応。

7/26
7/27

宮城県議会自由民主党・県議会防衛議員連盟県外調査に参加。防衛省・自衛隊宮城地方協力本部等のご協力により、海上自衛隊佐世保地方総監部（長崎県佐世保市）、航空自衛隊築城基地（福岡県築上郡）、筑前町立大刀洗平和記念館（福岡県）でご説明いただきました。

7/28
7/29

宮城県議会自由民主党・県議会環境・エネルギー議員連盟県外調査に参加。兵庫県にて、「兵庫県地球温暖化対策推進計画」「兵庫県の環境影響評価手続（太陽光発電・風力発電事業）」「太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例」のご説明。広島県庁等にて、「完全自立型EVシェアリングステーションの実証事業について」「広島県の地球温暖化対策」「再生可能エネルギー関連の環境影響評価事業の現状」のご説明。

今泉地区

若林区今泉地区において、今年五月のある雨が降った日に、小学生の小さなお子さんが学校からの帰り道、ある水路を目にしました。ふだんは水が流れていない小さな水路ですが、その日は雨が降ったこともあり、水が流れていて、そのお子さんは好奇心が旺盛なのでしょう、水路の水の流れを見ていたところ、誤って転落してしまっただけそうです。水路から上がることができず泣いていたところを、偶然近所の方が助けてくださったとのこと。無事で本当によかったです。この情報をSNSで渡辺に要望としてお伝えくださった方がいらっしゃり、さっそく危険箇所だということで、小学生の通学路でもありますので、仙台市議会でも市民教育委員会の委員長も務めていらっしゃる菅原正和仙台市議会議員に事の次第をお伝えし、関係各機関にご協力いただいですぐに対応をしていただき、しばらくして、該当箇所にはフェンスが設置され、小学生が転落することがないように対応をしていただきました。近年、全国各地のため池などで転落、死亡事故が相次いでいます。転落防止策が講じられていない箇所もまだまだあるとのこと、国や自治体で今年になってからは特に安全対策を講じるため、点検を進めているところが多いようです。今回は大事には至りませんでした。が、ふだんは全く問題のなさそうな箇所でも、実際にあわやというようなことが起きる箇所が身近にあるということで、地域で声をあげていただくことが本当に大事なことだとあらためて感じたところです。



沖野地区

第33回沖東夏まつりにPTA会長OBとしてお招きいただきました。

自民党

7月に実施された参議院選挙については、自民党公認の桜井充参議院議員とともに活動しました。



- 東北大学大学院で講師として「情報技術経営論」の講義を今年も受け持っています。昨年に引き続きオンライン中心の講義を行っています。東北大の講師は9年目となりました。
- 交通指導隊六郷分隊隊員として、議会活動のない日を中心に、沖野東小学校正門前で立哨しています。地域の皆様には交通安全へのご協力をいただき、誠にありがとうございます。

渡辺勝幸プロフィール

PROFILE

昭和50年生まれ仙台市若林区出身。47歳。沖野中、仙台一高(46回応援団長)、慶應義塾法大法学部卒。慶應大学院在学中より市川一朗参議院議員政策秘書(平成12年より22年)、平成26年仙台市立沖野東小PTA会長。平成27年宮城県議会議員(若林選挙区)初当選、現在2期目。平成29年県議会総務企画委員会副委員長、平成30年県議会スポーツ振興調査特別委員会副委員長、自民党宮城県連青年局長。令和元年県議会環境福祉委員会委員長、仙台市立沖野中PTA会長。令和2年県議会再生可能エネルギー・脱炭素調査特別委員会委員長。現在、自由民主党・県議会政務調査会長、宮城県議会経済工商観光委員会委員長、少子化対策調査特別委員会委員、自民党・県議会子ども・子育て議員連盟副会長、防衛議員連盟幹事長等、東北大学大学院非常勤講師(情報技術経営論)、仙台市若林区交通安全協会六郷支部顧問、宮城県私立幼稚園PTA連合会副会長、宮城県障害者スポーツ協会常任理事。

個人献金のお願い

地盤も看板もない渡辺勝幸の政治活動を支えるためには、皆様力強いお支えが引き続き必要です。B4一枚の活動報告を5000世帯に郵送するだけでも、**84円×5000世帯=42万円**の費用がかかります。切手1枚でも大変助かります。なお、献金いただけず場合は、事務所までご一報くださいますようよろしくお願い申し上げます。ボランティア・ポスティング活動へのご支援も合わせてお願いいたします！

県政レポートにつき毎号多くの方からお手紙やメールをいただきますありがとうございます。県政活動の参考にさせていただきます。

※公職選挙法により、政治家が選挙区内の人に時候のあいさつ状を出すことは禁止されています。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

宮城県議会議員 渡辺 勝幸

県政レポート 第27号

宮城県議会議員渡辺勝幸

発行日 令和4年9月11日

宮城県議会議員渡辺勝幸事務所

令和4年 9月

宮城県議会 第383回(令和4年5月) 臨時会を終えました！

5月30日、31日の2日間、宮城県議会第383回(令和4年5月)臨時会が開会されました。この議会においては、今年3月の地震で被災した中小企業の復旧などを支援する「グループ補助金」の費用として100億円、被災者生活再建支援法の対象になっていない自治体で自宅が半壊以上の被害を受けた世帯に対し、最大で300万円の支援金を支給する費用として1億円、新型コロナの影響で売り上げが減少した飲食店などを支援する市町村への助成として10億円等が計上された、**総額298億円余りの補正予算**について採決が行われました。なお、議第108号議案「宮城県県税条例等の一部改正条例」について、共産党派が反対討論に立ったため、渡辺勝幸が自民党派を代表して、賛成討論に登壇しました。

宮城県議会 第384回(令和4年6月) 定例会を終えました！

6月15日、宮城県議会第384回(令和4年6月)定例会が開会されました。この議会においては、物価高騰の影響を受ける運送業者への補助金や新型コロナウイルス対策の費用などを盛り込んだ、**総額66億円余りの補正予算**を可決しました。この議会では、物価高騰の影響を受ける運送業者への補助金や新型コロナウイルス対策の費用などを盛り込んだ、約66億円の宮城県の補正予算について採決が行われ、全会一致で可決・成立しました。ウクライナ情勢などに伴う燃料費高騰の影響を受ける事業者を支援するため、トラックなどの運送業者やタクシー会社への補助金としてあわせて13億2700万円、水産業者への支援策として、県内の港に水揚げする漁船に水揚げ額の0.4%を補助するなどの費用、4億5000万円が盛り込まれています。また、食材の高騰対策として、県立の特別支援学校や私立の小中学校などで提供される給食と、子ども食堂を運営している団体への支援費、さらに新型コロナ対策として、保育所や幼稚園などの職員に抗原検査を行う費用などが盛り込まれています。補正予算は全会一致で可決されたものの、発電出力が50キロワットを超える太陽光発電施設を設置する場合、住民に対し、事前に説明することを義務づけるなどした条例案、議第114号「太陽光発電施設の設置等に関する条例」について、共産党派より反対討論。その後、自民党派を代表し、渡辺勝幸が賛成討論に登壇しました。本議案は、共産党派を除くすべての会派の賛成により可決されました。また、副知事に総務省出身の池田敏之氏を起用する人事案等が全会一致で可決されました。さらに、決議・意見書については、最終日の7月5日に、それまで各会派政務調査会長会議で議論した、「水産業の危機を打開するための支援を求める意見書」「シルバー人材センターの安定的な事業運営が可能となるための支援を求める意見書」を全会一致で可決。「緊急事態に関する国会審議を求める意見書」については、共産、社民党派が反対討論。自民党派から遠藤華入政調会副会長が賛成討論の後、採決。県民の声、共産、社民の各会派が反対、無所属の会が退席したものの賛成多数で可決しました。

令和4年度5月補正予算(第2号)の主な内容について紹介します

《新規》道路橋りょう災害代行費(5億1,750万円) 中小企業等復旧・復興支援費(100億円)
県の権限代行による市町村道の復旧 復興事業計画に基づく生産施設等の復旧に向けた中小企業等グループへの助成

被災者住宅再建支援費(1億円) 県有体育施設災害復旧費(26億9,400万円) 新型コロナウイルス感染症対応事業者支援費(10億円)
被災者生活再建支援法に準じた住宅再建への助成 総合運動公園、第二総合運動場等の復旧 営業時間短縮等により業況が悪化している事業者を支援する市町村への助成

令和4年度6月補正予算(第3号)の主な内容について紹介します

《新規》保育所等検査推進費(5,419万円) 《新規》行政手続デジタル化推進支援費(2,000万円) 《新規》私立幼稚園等検査推進費(1,316万円)
保育所等の職員を対象とした抗原検査の実施 市町村における行政手続きのデジタル化への支援 私立幼稚園等の職員を対象とした抗原検査の実施

《新規》観光交通機能強化費(4,537万円) 《新規》公立幼稚園検査推進費(421万円)
観光地の混雑回避や移動の円滑化、観光客の周遊促進等に向けた取組の推進 公立幼稚園の職員を対象とした抗原検査の実施
《新規》図書館・美術館所蔵品デジタル化推進費(6,856万円) 《拡充》県産品インターネット販売支援費(8,363万円)
高精度デジタル技術を用いた所蔵品のデジタルコンテンツ化の推進 県内事業者による県産品EC販売促進への支援

令和4年度6月補正予算(第4号)の主な内容について紹介します

《新規》社会福祉施設等省エネルギー設備等導入支援費(4億6,910万円) 《新規》私立学校給食食材価格高騰対策費(1億5,000万円)
高齢者施設、障害福祉施設、児童福祉施設等の省エネルギー及びICT設備導入への支援 保護者負担の軽減に向けた私立学校の給食食材価格高騰分への助成

《新規》認証飲食店省エネルギー設備等導入支援費(6億円) 《新規》県立学校給食食材価格高騰対策費(1,950万円)
認証飲食店における省エネルギー及びICT設備導入への支援 保護者負担の軽減に向けた県立学校の給食食材価格高騰分への助成

《新規》みやぎ米省エネルギー化支援費(1億4,000万円) 《新規》子ども食堂運営支援費(2,000万円)
穀類乾燥機の省エネルギー化への支援 子ども食堂運営団体等への助成

《新規》土地改良区再生可能エネルギー設備導入等支援費(1億7,150万円) 《拡充》フードバンク支援費(1,000万円)
土地改良区における再生可能エネルギー設備導入等への支援 生活困窮者や子ども食堂等への食料支援を実施しているフードバンク活動団体への助成

《新規》児童養護施設等食材価格高騰対策費(213万円)
児童養護施設等に対する食材価格高騰分への助成

宮城県議会経済工商観光委員会委員長としての主な活動

5/20

宮城県議会経済工商観光委員会、報告事項及び所管事項。「みやぎ発展税」活用実績等と今後のあり方について、産業技術総合センターEMC総合試験棟の開所式について、宮城県の商圏(消費購買動向調査報告書)の概要について、株式会社仙台港貿易促進センターの減資について、労働相談の状況について。

5/27

宮城県産業技術総合センター(仙台市泉区)EMC総合試験棟開所式に経済工商観光委員長としてお招きいただく。電気製品を市場に出すために不可欠な電磁波の評価ができる最新の施設であり、県内企業の海外展開に資する施設となっています。

6/2
6/3

宮城県議会経済工商観光委員会の県内調査で、宮城県内の次世代放射光施設等を訪問しました。「次世代放射光施設の現状について」(一般財団法人光科学イノベーションセンター・仙台市青葉区)、「アクアイグニス仙台の取組について」(アクアイグニス仙台・仙台市若林区)、「湯治ワーケーションの取組について」(大沼旅館・大崎市鳴子温泉)、「VESTAプロジェクトによる観光振興等の取組について」(サスティナビレッジ鳴子・大崎市鳴子温泉)、「小型宇宙利用・回収プラットフォームELS-Rの現状について」(東北大学総合研究棟・仙台市青葉区)。



7/1

6月定例会における宮城県議会経済工商観光委員会。予算外議案3件、財産の取得について(電子プローブマイクロアナライザー式)、権利の放棄について、野宮場条例等の一部を改正する条例について、すべて全会一致で可決。報告事項5件、附属機関等の設置及び構成員の選任等の状況、ものづくり産業の振興施策に関する令和3年度事業の実施状況及び令和4年度の主な取組、令和3年観光統計概要(速報値)について、第4期みやぎ観光戦略プランの令和3年度の実施状況について、令和3年度多文化共生社会の形成の推進に関して講じた施策。

7/21

宮城県議会経済工商観光委員会、報告事項及び所管事項。令和4年7月15日からの大雨に伴う被害状況等、令和4年度「宮城県企業立地セミナー」の開催について。

7/25

宮城県商工会議所連合会による、菊地恵一県議会議長への要望活動に、経済工商観光委員会委員長として同席。

そのほか、委員会運営の事前打合せや予算の分科会審査をはじめ各課との様々な打合せなどに委員長として取り組みました。

Takahiro Inomata

猪又隆広

仙台市議

第1回 県市連携対談企画

Katsuyuki Watanabe

渡辺勝幸

宮城県議

PROFILE ● 猪又隆広 仙台市議

昭和58年栗原市生まれ。仙台市立若林小、八軒中卒業。仙台市立仙台高校卒業(吹奏楽部部長)。東北学院大学卒業(高校社会科教員免許取得)。衆議院議員秋葉賢也公認第一秘書(政策担当秘書資格取得)。

仙台ONLINE

渡辺 一回目の県議・市議の対談企画ということで、(渡辺と同じ)仙台市若林区選出の市議会議員猪又隆広さんと対談をいたします。今回は猪又さんの事務所におりますが、こゝは河原町商店街の真ん中にごいます。
猪又 秘書になつたのは何歳くらいの時ですか？
渡辺 24歳です。
猪又 私と一緒ですね笑。
渡辺 私は12年秘書を務めたのですが、2019年の市議会議員選挙に立候補いたしました。
渡辺 12年も秘書を務めたのですね。
猪又 はい、まるまる千支一周分。渡辺県議ほどのくらい務められたのですか？
渡辺 私は10年です。猪又さんは長い間秘書を務められたこともあり、(政治的)土地勘はあるということですね(笑)。

渡辺 秘書の時に仙台青年会議所(以下JC)に入られたのですね。JCは地域活動、社会貢献活動をしていますけど、仙台七夕花火も開催していますね。
猪又 そうですね。仙台七夕花火は毎年8月6日から開催される七夕祭りの前夜祭として、今回は53回目の開催となります。先輩方から連綿と受け継がれてきた歴史があります。
渡辺 私はJC時代には会場の雑踏警備や、(温度対策や火事防止の)水まきをしたりしていました。
猪又 花火は1時間程度で終わるのですが、朝の準備から開催時の警備翌朝のゴミ拾いまでが活動となりますので、24時間以上の活動となりますよね。そんな季節が今年もやってきました。
渡辺 JCでは様々な活動がありますが、一番印象に残った活動は何でしょうか？



レットでどのように授業をするかを先生達にも伝えていく、そのような仕組みも必要だと思います。

猪又 一番の問題点はそこで、先生方がICT教育に関する準備技術習得で更に多忙を極めるのではないか。教員の多忙化というのは従来からあった問題ですが、コロナの影響より深刻化するという話を学校教育現場からいただきました。私が視察に行った錦ヶ丘小学校は早期からタブレット授業に取り組んだ学校ですが授業を休憩時間の先生が見に来ていました。先生方も得意分野が異なりますので、他の先生がどのように授業をしているかを見学し、参考にしている。こういった取り組みは一つのモデルケースなのではないかと思いました。また、仙台市ではICTをどの様に授業に活かすということをサポートする為に、ICT支援員を配置することにしました。また、教育研修等も充実させています。
渡辺 本来は先生方の働き方改革に資するものであつて、ICT教育が進めば先生方の勤務状況の改善も繋がりますが、導入に伴う入口の負担増が懸念されます。これはICT教育の導入だけでなく、行政のデジタル化、中小企業のデジタル化、デジタル推進に共通する課題だと思います。最初にきちんと教えてくれる人がいて、その後は効率的に業務が進めることができる、デジタル化は進むと思います。

猪又 仰るとおり、色々な面でデジタル化は進んできていて、10月からは地域商店街でもデジタル商品券を導入する取り組みもあります。社会的にデジタル化が進んでいますが、その流れに追いつけない人もしっかりと行政がバックアップしていくことが大切になつていくと思います。

防災・減災について

渡辺 次に防災減災のテーマに、猪又さんはご関心があるということですが、今後大きな地震が再び起きないとも限らない。その点について考えをお聞かせください。
猪又 まず河原町南材地域には広瀬川があり、河川の氾濫に對する関心が高いです。サードマップでは3m以下の地域となつており、一階が商店となっている所がありますが、多くが浸水エリアとなつています。近年はゲリラ豪雨や内水氾濫の問題があり

委員で構成されており、私は幹事だったのですが、100名以上のホテルの予約や、懇親会の設定、そういったことも幹事の仕事をたて、朝から電話掛けをしながら対応しております。
渡辺 私もJC在籍時には憲法改正の委員会に在籍しておりましたので、日本青年会議所に向向し、同世代の仲間と親交できたのが貴重な経験でした。

地元の河原町商店街・広瀬川の活用について

渡辺 次に、地元の河原町商店街、南材地区の話をお聞かせいただけます。素晴らしい商店街があつて、地下鉄の駅もある。この地域の現状と、これから仙台市としてどのように街づくりに取り組みるか、そのような話を伺いたいと思います。抽象的かもしれませんが、河原町南材地区は伊達政宗公が晩年過された若林城の城下町ということで、荒町柳町の流れをくんで整備しようとしたことがきっかけで整備された街です。河原町は歴史が古く、(事務所のお隣の八百屋さんは130年の歴史があったり、南材木町には当時の蔵の部も残っています。歴史に名をはせる街だと思います。そして商人の息遣いが感じられる町だと思います。私はこの八軒中学校の出身ですが、当時から名前について興味がありました。私も河原町商店街に事務所を構えて2年くらいになりますが、この場所に事務所があるというのはありがたいことで、中学校を卒業はしていましたが、あたたかい感じをお話を聞かせて頂いたりもしています。今後の課題として、河原町の商店街としても大事なのですが、河原町の商店街単体で街づくりはできません。議会でも質問しましたが、近くの商店街のジョイント(連携)が大事だと思います。近くには愛宕商栄会さんがありますし、荒町商店街、川を渡れば長町商店街があります。商店街連携が今後のまちづくり大切なことだと思つていますので、橋渡し役をやつていきたいと思つています。これから広瀬川の灯篍流しがありますが、これは商店街が連携して行つている行事です。

渡辺 商店街の連携は大事で、連携により人の流れを呼び寄せることもできます。灯篍流しは連携がうまく行つている例だと思います。以前私は県議会の質問で、NPOへの支援を進めることと同時に、川を活かした街づくりを進めたいと村井理事に質問したことがあります。京都では鴨川に様々な商店が並び、それ自体が観光スポットになっていて、そこに注目が集まり、近くの商店街にも人が流れ、外国からの観光客も来る。今の状況で、関上の「かわまちらす」のように川沿いに商店街をというのはハードルは高いかもしれませんが、やり方によっては商店街と川の近さを活かした街づくりができるのではないかと思います。広瀬橋から上流は県が管理する河川なので、洪水等の備え、堆積物の撤去等をしながらも、川を活かした街づくりができれば、愛宕橋、河原町長町がもと元気になると思つています。

渡辺 冠水することはなかなかないのですが、指定避難場所の南材木町小学校の南側は排水能力が追い付かず、令和元年の台風の時冠水したりと、難しい地域だと思います。南材小の体育館は一階にありますが、大雨の時は避難に体育館が使えず、二階以上の教室に避難することもあります。現在のコロナウィルス感染症対策の為に距離を取つて避難していただくことを踏まえ、地域の方々全員を受け入れることは難しいのが現状です。そして、南材地域では自主防災組織がつくられていて、その中で仙台市の地域防災リーダー(SBL)が中核を担っています。連合町内会単位でSBLを育てていくということで、多い地域では8、9名が防災リーダーとなつていて、私も南材地区の地域防災リーダーとなつております。

渡辺 SBLのように地域の防災を担つてくださる方がいる地域とない地域では、防災に対する意識も違つてくると思つています。南材木町小学校の体育館は、体育館の二階と本校舎の二階が連結していると思つています。防災を意識した構造となつていますよね。
猪又 南材木町小学校が建て変わったのは数十年前になりましたが、当時の連合町内会長や地域の皆さんからの要望でそうなりました。また現在は体育館の二階が自主防災組織の拠点となつています。(浸水時の避難場所である本校舎、二階と繋がつている)ことにより、災害時の連携が取れるようになっています。

渡辺 南材地区の防災に関する地域の取り組みはモデルケースとなつており、県内全国から注目を集めています。これからもこうした取り組みをさらに発展させていきたいと思つています。
猪又 3月16日に大きな地震が起きました。私も地域防災リーダーとして指定避難場所の南材木町小学校に向かつたのですが、お母さんが娘を抱えて校門にいました。声をかけたところ、お母さんが壊れて、不安なので避難しに来たとのことでした。私が到着したのは地震の20分後くらいですが、また体育館も校舎も開いていなかったりで、校門のところにいらつていました。その時に「もうすぐ(避難所が)開設されますよ」とい言えず、菌がゆかた。その経験を元に開設されました。鳥取での取り組みなのですが、震災時に自動で避難所の鍵を開けられるシステムについてです。向こうでは南海トラフ地震に備えた対応なのですが、震度5以上の地震が発生すると、避難所となる校舎の鍵は入った保管箱が自動的に開錠され、地域の防災リーダーなどが避難場所に到着次第、すみやかに避難所を開けることができます。これまでは学校の先生や、指定された市の職員の方が来て開錠していたのですが、地域防災リーダー等の権限を委譲していいよと思つています。
渡辺 私も沖野東小学校のPTA会長を務めました。PTAの内会長、PTA会長、体育振興会の会長が学校の鍵を預けられていました。私の地域では町内会長さんが真っ先に鍵で開錠していただきました。人が頼つたシステムでは鍵を持つていてる人が近くにない時にどうするかという問題があります。そこで、鍵を自動で開けられるシステムは素晴らしいと思つています。予算上の問題がなければ、避難所として使えます。

猪又 これは県市が連携して取り組む課題の一つで、広瀬川はまだ活かされてないと感じています。他の政令市を見ると、川が憩いの場であつたりと、川を活かした街づくりが進んでいる。特定の行事だけに特化したものではなく、もう少し長い期間で川を活かせる街づくりできればと考えています。色々ハードルがありますが、それを一つ一つ突破していくことが、地域の河川利用に繋がると思つています。
渡辺 憩いの場と言えば、高校時代に私は応援団に所属していましたが、またまた休憩時間があると広瀬川の河原でマントを羽織つて下駄歩き、寝こんで休んでいました。そうすると犬が寄つてきたりしました(笑)。川の流れる音を聞きながら休憩できる場所があるというところは、仙台市民にとつての財産ですね。
猪又 広瀬川の堤外地(河川敷)には工作物が置けないというのは、条例上仕方ないことではあります。河原町近辺に遊び場や公園が少ないので、遊具とかを置きたいが条例上できない。そのような課題を県市が連携して解決できればと思います。

子育て政策・ICT教育について

渡辺 次に子育て政策についてお聞かせください。猪又さんはお子さんがいらっしゃると思います。
猪又 はい、3歳と7歳の二児がいます。
渡辺 子育てしながらの社会活動をするのも大変だと思いますが、実際に仙台市がどのような子育て政策をしているのか教えてください。

猪又 私も7歳、小学2年生の子供がおりますが、やはりコロナの影響で教育現場も変わってきているなと思つています。今までは先生が教えて、子供たちが学ぶ。それが一般的でした。2017年から国が主導したICT教育が始まりました。2022年まで5年間かけてタブレット端末やパソコンを配布しようという計画でした。ただコロナの影響で2021年までに前倒しをするということで、仙台市でも約8万5千の市立学校の生徒へ整備を進めることとなりました。これまでは先生が黒板に書いてたことをシートに書いてプリント配布による授業をしたりしましたが、タブレット端末を活かしたICT教育を仙台市で進めていかなければならないと思つています。もちろんタブレット端末があればよい、というのではなく、環境整備を進めなければならず、私も市議会の質問で、インターネット回線の問題やタブレット上で先生が黒板に書くように表示する電子黒板的な要素をどのように整備するか、タブレットに慣れ親しむ為に学校から端末を持ち帰るのについてはどうなのか質問してきました。その中で、従来の教え方も授業から「学び取る授業」に変換していかなければならない。探索型学習つまりどういった問題があつてどのように考えるのか自分で導き出す力を育てなければなりません。課題解決型学習[Project Based Learning]がこれが必要なのはと考えており、市議会でも提案していきたいと思つています。
渡辺 子どもたちのタブレットの使い方の問題もありますし、先生自身もICT教育の環境に対応する必要があります。タブ

組みであると思つています。
渡辺 色々とお話を聞かせていただきましたが、私は県議会議員でありまして、猪又さんは市議会議員でいらつています。宮城県と仙台市の連携が色々な場面で話題になっていきます。村井知事と郡市長が仲が悪いと言われたりもします(笑)。普段は様々な面で連携していますし、それぞれの権限からあつたりするところもありますが、今後の連携の在り方についてお聞かせください。
猪又 渡辺さんも言いましたが、政令市と県の関係性は議員になつてから難しいと思つてようになりました。様々な課題のなかでぶつかつてしまつては、どうもありません。例えばは今、4病院再編があつたり、県民会館跡地の利用問題、こうしたことは議会でも議論になっていきます。トップ同士で意見を交わすことは大事ですが、常日頃から県議会、市議会、共に仙台市内で選出されている議員です。都度都度の意見交換はあつたとしても、年間を通じての意見交換は私が議員になつてからはないと思つので、県議市議が意見をぶつつけあつて勉強していくことが大事だと思つています。私は若林区選出の仙台市議会議員、渡辺さんは若林区選出の宮城県議会議員であつて、自分の地域のみならず全体を見るのが大事だと思つています。私の場合は仙台市全域、渡辺さんの場合は宮城県全体、広い視点で俯瞰してみるのが大事だと思つています。

渡辺 こゝ数年はコロナの影響もあり議員同士が意見交換する機会も減つてしまつています。自民党は宮城県連としての会議等もあり顔を合わせることもありますが、その時に個別の案件について話し合つたこともありますが、色々なテーマで話し合う場を作っていくことが大事だと思つています。他の県でも、政令市と県間には微妙な緊張感があるというところを聞きます。とはいえ連携できれば無駄を省けたり、協力して推進できる政策もあると思つています。県議会議員としては宮城県全体という視点でみなければならぬ問題も、その中で仙台市の方々の意見も聞きながら調整していかねばならないと思つています。
渡辺 最後に、今後の目標は何でしょうか？
猪又 行政のデジタル化が進む中で、市民の皆さんに利便性を感じてもらい、取り残される方がないように教つていくことが大事だと思つています。またバス路線が問題となつており、バス路線問題と敬老乗車証の問題を合わせて対応したいと思つています。今利用されている方、仙台を担う子供たちが市税を活用して生活する中で考えなければならぬと思つています。高齢化社会が進む中で、健康課題にも取り組んでいきたいと思つています。また、ドロインの活用も考えていきたいと思つています。私は河原町出身ですが、六郷地区にも行くこともありますので、農業問題も真剣に考えたいと思つています。ウクライナ問題で小麦の生産に関する問題が取り上げられるなか、食料自給率のことも踏まえて頑張つていきたいと思つています。

渡辺 猪又さん、今日はお忙しいところお時間をいただき、ありがとうございました。これからは、県市、連携して頑張つていきたいと思つていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。